

*1.2m パラボラ太陽電波望遠鏡案内看板完成

天文情報センターでは、太陽電波グループがまだ三鷹にいた頃、観測に使っていた口径1.2mの17GHz8素子干渉計(写真1)が野辺山に移転していたものの1台を見学用に赤道儀に載せた太陽電波望遠鏡として里帰りさせる計画を野辺山のグループと進めていた。いよいよ、1.2mアンテナが5月10、11日に三鷹に設置されることになり、それに先立って三鷹側の準備としてコンクリートの基礎、案内看板の準備を進めていた。1.2m パラボラ赤道儀式電波望遠鏡を設置するコンクリートの土台工事とともに、案内看板の設置を進めていたが、案内看板が4月25日に完成した。

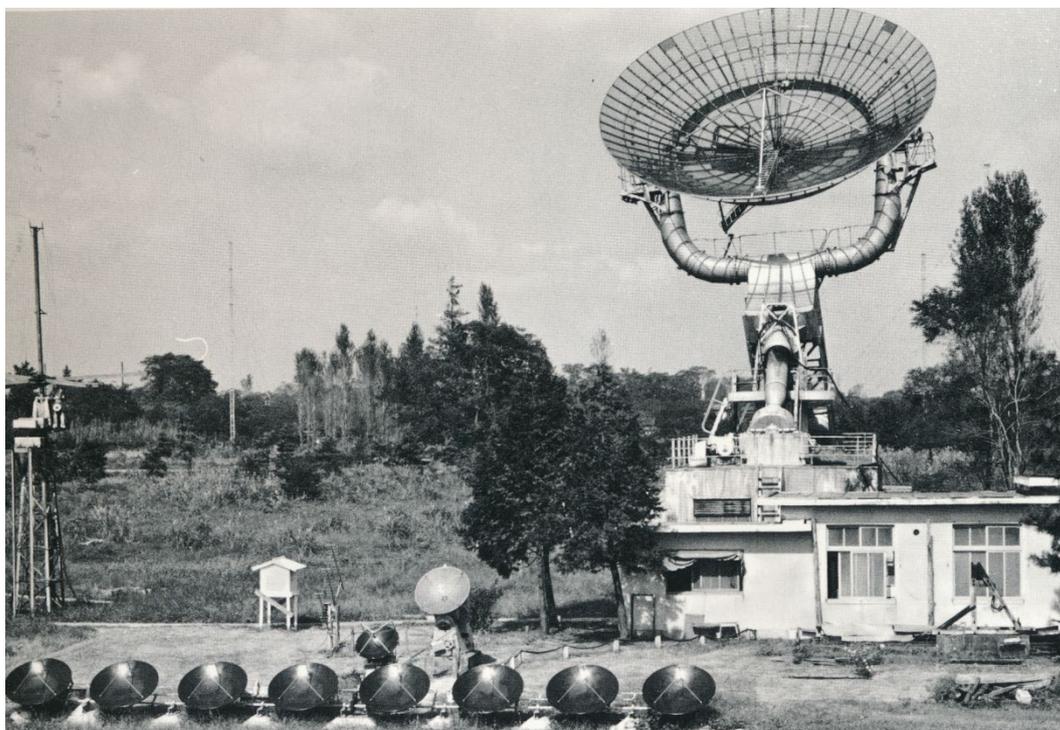


写真1 三鷹の電波グループの望遠鏡 手前の8このアンテナが17GHz8素子干渉計
写真1の8素子干渉計の後にあるのが、三鷹の電波グループの象徴的な存在であった口径10mパラボラ太陽電波望遠鏡である。この10mアンテナも赤道儀架台に載っており、その姿は美しく、遠くからも眺められた。1970年頃、三鷹の太陽電波グループは野辺山に移転した際、1.2m8素子干渉計も野辺山に移転していた。その8素子の1台が野辺山で改造され、見学者用に赤道儀式の太陽電波望遠鏡となって完成し、太陽電波が受信されると音楽が鳴り、電流計の針が振れるように改造された。この1.2m太陽電波望遠鏡を三鷹キャンパスのどこに設置するかが検討され、当初は50cm社会教育用望遠鏡ドームの近くに設置する

案もあったが、三鷹に置くなれば太陽電波グループの拠点があった歴史的な「ノイズ」と呼ばれたエリアがいいということになり、その地は、現在では天文機器資料館を取り囲む広大な広場になっているので好都合であった。そこで、10m パラボラアンテナ跡の近くに設置することになり、土台のコンクリート工事もほぼ完成しており、既に設置してある 10m パラボラアンテナ跡の案内看板の右隣に 1.2m アンテナの案内看板を設置した（写真2）。



写真2 完成した 1.2m 太陽電波望遠鏡の案内看板



写真3 10m アンテナの案内看板と並んで立っている

このように、電波天文学発祥の拠点であった場所に、再び太陽電波を受信できる電波望遠鏡が出来ることは素晴らしいと思っている。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp